会 議 記 録			
会議の名称	決算特別委員会 総務文教分科会		会議場所 第3委員会室
			担当職員 数井
日時	令和5年9月19日(火曜日)	開 議	午前10時00分
		閉 議	午後 3時47分
出席委員	◎松山 ○三上 竹内 小林 浅田 原野 福井 山本		
執行機関出席者	三宅生涯学習部長、元古人権啓発課長、樋口市民力推進課長、小塩文化国際課長 小林生涯スポーツ課長、白波瀬人権啓発課副課長兼啓発振興係長事務取扱、 西出人権啓発課副課長、土川東部文化センター館長 岡田文化国際課副課長兼文化国際係長事務取扱 入江市民力推進課副課長兼地球環境子ども村係長事務取扱 香川市民力推進課副課長兼市民活動推進係長事務取扱 山口人権啓発課男女共同参画推進係長、廣瀬生涯スポーツ課生涯スポーツ係長 野々村会計管理室長、森岡財産管理課長、山内会計課長、松井公用車管理担当課長 横山財産管理課資産マネジメント係長、鹿島会計課主任		
事務局	数井事務局次長		
傍聴	☒ ・否	市民 0名	報道関係者 1名
			議員 0名()

会 議 の 概 要

10:00

1 開議

[事務局日程説明]

10:01

2 議案審査

(1) 令和4年度亀岡市一般会計決算認定について(第4号議案所管分)

(生涯学習部 入室)

10:01~

【生涯学習部】

生涯学習部長 あいさつ

各課長 説明

11:06

(休憩)

11:06~11:15

《質疑》

<松山委員長>

26ページから28ページまでで質疑あるか。

<福井委員>

27ページ、地球環境子ども村推進経費の来村事業について、来村するのは小学校や幼稚園等との説明であったが、社会教育団体は来ないのか。

<市民力推進課長>

来村事業はこども園、保育所、小学校などから来られており、社会教育団体はない。

<竹内委員>

26ページの企画推進経費について、文化施設の在り方に係るユースミーティングには、若年層と専門的な知見を持つアドバイザーが参加されたとのことであるが、具体的にはどうか。

<文化国際課長>

ユースミーティングにおける若年層は亀岡高校生が2人、南丹高校生が2人、はたちの会実行委員会の2人である。そのうちはたちの会実行委員の一人は当日欠席され、参加委員としては5人であった。アドバイザーの一人は、小劇場THEATRE E9 KYOTOの支配人で、ロームシアターの立上げにも関わった方であり、もう一人は亀岡市の建築家で京都建築大学の講師をされている方である。

<山本委員>

27ページ、男女共同参画推進経費の女性の相談室について、フェミニストカウンセリング、法律相談、一般相談と種類があるとのこと、件数と金額の内訳はどうなっているのか。

<人権啓発課長>

女性の相談室901件の内訳としては、一般相談が845件、フェミニストカウンセリングが34件、法律相談が22件である。金額の内訳については後ほどお答えする。

<山本委員>

28ページの生理用品の配布について、予算と決算額に大きな差がある理由は。

<人権啓発課長>

生理の貧困対策事業については、開始当初において実績がなく、不足しないように多く見積もっていたため、令和5年度3月補正で102万7,000円の減額補正をしたところである。

<竹内委員>

27ページ、男女共同参画推進経費について、LGBTQ+のシンボルマークを作成しているが、そのマークの活用状況と今後の計画は。

<人権啓発課長>

昨年度については、シールを作成し、ゆう・あいフォーラムで配布した。今年度については、LGBTQ+に関するパンフレットを作成する予定であり、そのパンフレットの中で掲載するなど活用していきたい。

<竹内委員>

庁舎1階のトイレに貼ってあるが、シンボルマークの作成経緯などの説明書きはあるのか。

<人権啓発課長>

掲示している。

<竹内委員>

以前ゆう・あいフォーラムの実行委員をしていたことがあるが、最近の会議の

傾向や取組状況はどうか。

<人権啓発課長>

ゆう・あいフォーラム2022の運営として、11名の方に参画いただき、構成も若年層から50代以上の方もおられる中で、事業の実施について協議をいただいている。特に、ヒューマンフェスタと同時開催することで、若い方の参加が増えるなど効果はあると考えている。

<竹内委員>

ゆう・あいフォーラムとヒューマンフェスタの相乗効果でよりよい啓発ができたと理解しており、引き続き取組の推進を願う。

<山本委員>

28ページのコミュニティスペース「京都まあぶるスペース」の開催について、参加状況など具体的にどうか。

<人権啓発課長>

「京都まあぶるスペース」については、令和4年度において、京都市、亀岡市、長岡京市の3市で実施した。第1回目が6月25日に京都市で開催し、12名の参加、第2回目が7月24日に亀岡市で1名の参加、第3回目が8月2日に京都市で4名の参加、第4回目が9月25日に長岡京市で6名の参加、第5回目が10月15日に京都市で10名の参加、第6回目が11月26日に長岡京市で8名の参加、第7回目が12月18日に亀岡市で3名の参加、第8回目が1月21日に京都市で1名の参加となっている。参加者については他府県からを含め、開催地以外から多く来られている。

<山本委員>

広報の方法は。

<人権啓発課長>

亀岡市の広報誌やホームページのほか、各公共施設に「京都まあぶるスペース」のチラシを置いている。

<原野委員>

27ページ、男女共同参画推進経費の女性の相談室について、一般相談845件の内容はどのようなものか。話をするだけで納得されるのか、ほかの連携機関へつないだりしているのか。

<人権啓発課長>

一般相談の中には電話相談だけで終わるものもあり、一方、各支援機関へのつなぎや福祉制度の紹介、必要に応じて警察等と相談することもある。一番多い相談が夫婦関係の悩みであり、続いて暮らしの相談、3番目に多いのが心の不安等の相談である。この相談事業経費375万7,290円の内訳であるが、一般相談が285万2,322円で相談員の報酬が主であり、続いてフェミニストカウンセリングが44万1,540円で、京都フェミニストカウンセリングへの委託料、続いて法律相談が46万3,428円で、京都弁護士会への委託費である。

<原野委員>

それら相談内訳の割合は。

<人権啓発課長>

夫婦関係の悩みが49.6パーセントで約420件、暮らしの相談が25.8パーセントで約220件、心の相談が約70件となっている。

<原野委員>

26 ページ、企画推経費のユースミーティングについて、実際にどのような意見があったのか。

<文化国際課長>

ユースミーティングでの意見として、中学生の時に吹奏楽をされていた方から、「演奏するにもホールが近くになく、亀岡市にホールがあればよいと感じていた」というものや、全く音楽経験や興味がなかった方から、「オペラ鑑賞でロームシアターを利用したきっかけで興味を持った、そういったことから文化ホールは必要だ」という意見があった。

<原野委員>

文化ホールに係る円卓会議とはどういったものか。

<文化国際課長>

どなたでも参加できるとして、幅広く広報し多くの方に来ていただいた。

<原野委員>

何名ぐらいか。

<文化国際課長>

50人近くの参加があり、意見の一つとして、「子どもがバレエを習っているが、発表する場所がないので文化ホールの建設を希望している」というものであった。

<小林委員>

26 ページ、地球環境子ども村推進経費の亀岡生き物大学の具体的な内容は。

<市民力推進課長>

亀岡生き物大学の内容は、夏休み期間の連続講座として、水辺の昆虫教室、星空教室、森林教室などをしており、特別講座では、たんぼぼ教室や野鳥観察会、初めての家庭菜園教室などを行っている。野菜づくりや生き物との触れ合いの中で、環境学習に役立っていると考えている。

<小林委員>

対象は小学生か。

<市民力推進課長>

対象は小学生で、一緒に保護者の方も参加していただき、親子で講座を受講していただいている。

<三上副委員長>

27 ページ、男女共同参画推進経費における生理の貧困対策事業で、執行残額が大変多いことについて、積算の方法が、先行して実施された大山崎町の予算組みをそのまま人口比で亀岡市に当てはめたと以前説明を受けた。実際のところ、需要がないものなのか、受取りにハードルが高いのか、周知不足なのか、分析しての所見は。

<人権啓発課長>

令和4年度は市のLINEで広報を3回行った。今年度については4回を検討しているが、LINEをしたときのみ多くの方が取りにこられる状態であり、この決算額が必要な数ではないかと考えている。

<三上副委員長>

受取りに関して、ハードルの高さがあるかどうかの検証はしていないのか。

<人権啓発課長>

配付場所としては、人権啓発課のほか、地域福祉課、保健センター、社会福祉協議会の事務所、かめまるランドであり、1番多いのが社会福祉協議会とかめまるランド、2番目が保健センター、3番目が地域福祉課、4番目が人権啓発課となっている。このようなことから、受取る場所の環境整備はできていると考えている。

<三上副委員長>

一般の団体が生理用品の配布をしており、受取りにくさを配慮して黒い袋に入れていたが、いろいろな種類があるため、自分が必要としているものかどうか分からないということがあったと聞く。亀岡市の場合はどういう形で配布しているのか。

<人権啓発課長>

配布については、昼用と夜用をセットにして紙袋に入れているが、それでよいかどうか何らかの方法で検証していきたいと考えている。

<松山委員長>

28ページから30ページまでで質疑はあるか。

<福井委員>

29ページの文化振興経費、亀岡の文化等紹介冊子「京都・亀岡 暮らしと、ところ。」は何冊つくったのか。

<文化国際課長>

令和元年に日本語版2,000冊、英語版2,000冊を作成し、その際、各小・中学校のクラスに1冊ずつ配布している。現在は秘書課に渡し、来客時に渡していただくなどしている。

<福井委員>

残数は。

<文化国際課長>

日本語版は約300冊、英語版は約1,000冊残っている。

<福井委員>

良い冊子であるので役立てていただきたい。

<原野委員>

29ページ、国際交流経費の執行額26万3,750円のうち、亀岡国際交流協会補助金8万円以外の執行内容は。

<文化国際課長>

職員の出張旅費や姉妹都市へのクリスマスカードの送付経費など事務的経費である。

<松山委員長>

国際交流協会補助金の中で、国際タイムズは何部発行されたのか。

<文化国際課長>

後ほど確認して回答する。

<小林委員>

30ページの多文化共生推進経費におけるかめおか多文化共生センター運営業務委託について、何名で事業をしているのか。

<文化国際課長>

相談員4名が対応している。

<竹内委員>

30ページの多文化共生推進経費、外国人住民支援クーポン事業運営等業務委託について、具体的な業務内容は。

<文化国際課長>

委託先の国際交流協会において、広報チラシやクーポン冊子の作成、受取りに来た外国人の対応等全般である。

<竹内委員>

クーポンの交換人数として、第一弾は135人、第二弾が202人と記載されているが、全対象者の何割か。

<文化国際課長>

外国籍の方は1,000名少しおられ、交換された方は2割程度と考えている。第2弾の内訳としては13か国の方が来られ、一番多いのがベトナム人であった。

<竹内委員>

この事業に対しての課題など所見は。

<文化国際課長>

これまでのクーポンは大型店舗が対象外であったため、外国人支援として金券と交換のできるこの事業を実施したが、次回予定されているクーポンは大型店舗での使用ができるようになったことから、本事業は実施しないこととしている。また、口コミなども含めて多文化共生センターがあることを知らせたいことも目標であり、一定目的を達したと考えている。

<竹内委員>

かめおか多文化共生センターにおける相談について、どのようなものがあるのか。

<文化国際課長>

930件の相談のうち約500件が暮らしに関わることであり、具体的な内容としては、亀岡市に引っ越してきた際に、亀岡市のことが分かる情報を多言語で知りたいといったものである。対応としては、ゴミ出しに係る多言語のチラシの配布や日本語教室の案内、多言語の観光情報の提供などに努めている。出産や子育てについても相談があり、多言語での対応に心がけている。

<松山委員長>

午後1時15分まで休憩する。

(休憩)

12:01~13:15

<松山委員長>

会議を再開する。文化国際課長から国際タイムズの発行部数について答弁願う。

<文化国際課長>

1回500部を計4回発行している。

<松山委員長>

31ページから38ページまでで質疑あるか。

<福井委員>

32ページの住民交流推進経費、京都市西京区との交流事業として、主な経費は1万5,845円の郵送料となっているが、ほかには軟式野球大会などスポーツイベント開催の会場費として支出があるのか。

<文化国際課長>

そういった経費は一切支出しておらず、郵送料のほかにはチラシの印刷費など消耗品として執行している。

<福井委員>

会場費などは各団体に負担しているのか。

<文化国際課長>

そのとおりであり、広報に限り協力をしている。

<福井委員>

同じページの交流会館運営経費、スポーツクライミング施設について、設置をするとなったとき、本委員会でも安全面などで議論をした経過があるが現状の運営はどのようにされているか。

<市民力推進課長>

利用年齢は7歳以上で、利用者の安全確保として、初心者の方についてはスポーツクライミング教室の受講、または利用者講習ビデオを視聴し、ルールを理解した上で利用いただいている。また、会員登録の際には、危険があることを認識し、使用規定と注意事項を確認した上で同意書への記名を求めるとともに、施設内にも注意事項を掲示している。全部で6面の壁があり、一つの壁につき1名しか登れないというように使用を制限し、落下防止対策として、厚み30センチメートルのマットを設置し、壁を登っている人がいる間はマットへの立ち入りを禁止して交錯事故防止をしている。さらに、職員が監視してルールに従わないなど危険と判断した場合は声かけをしている。施設の安全点検としては、職員による日常の安全点検や清掃のほか、業務委託により、ホールドの安全点検や清掃、安全なコース設定を委託している。それでもスポーツをする以上、万が一の事故発生のため、AEDの設置に加え、市の責任による傷害保険以外にも、けがによる通院や入院に利用できる普通傷害保険に加入している。なお事故については、令和2年の供用開始から2件となっている。

<福井委員>

学校での利用があったとき、引率した教諭が講習を受ける必要があるのか、また、2件のけがの状況は。

<市民力推進課長>

最近では学校単位での利用はない状況である。事故については、1件は令和2年7月5日に発生し、胸椎骨折ということで通院治療をされた。もう1件は令和5年5月14日に発生し、大腿骨骨折ということで救急搬送後に手術され、現在も通院中である。

<福井委員>

引き続き安全確保に努め、けがのないように願う。

<三上副委員長>

料金設定が市内と市外で違うが、その内訳は。

<市民力推進課長>

市内が974人、市外が1,203人である。

<松山委員長>

事故発生による施設の瑕疵責任はなかったのか。

<市民力推進課長>

2件とも施設の瑕疵によるものではなく、利用者からクレームはない。

<松山委員長>

山岳連盟との関わりはどうか。

<市民力推進課長>

山岳連盟には施設の安全点検やホールドの点検など、市職員では対応できない部分について業務委託をしている。業務内容としては、スポーツライミング教室を年12回開催、ホールドメンテナンスおよびルートのセットが年3回、オートビレイ機の保守点検などである。

<松山委員長>

オートビレイ機とは何か。

<市民力推進課長>

高い壁面を上るときの安全ベルトをつける機械である。

<小林委員>

31ページ、まちづくり推進経費、亀岡市支えあいまちづくり協働支援金交付件数が全部で10件となっているが、その詳細は。

<市民力推進課長>

当該事業は三種類あり、またそれぞれいくつかのプロジェクトで構成されている。まず、スタート事業は、子育て世代にフォーカスを当てたイベントやマルシェを開催するママの輪プロジェクト、学生ボランティアによるツリーハウスづくりなどを行う癒しの森づくり事業、紫色で亀岡市を盛り上げようというアート関連のイベントを実施するムラサキガーデンプロジェクト、馬路町池尻区遊歩道の裏山整備を行う平の沢トレイルの4事業である。次に、ステップアップ事業は、障がい児者と健常者の交流を深め社会生活への自立を支援する場づくりとして、専門家による勉強会や相談会、会員家族同士の交流会などを開催されている。ほかに、毎週木曜日に保護者が気軽に悩みや困り事を話せる居場所の提供としてリラハピルームの開設、親子で工作やダンスなどの体験ができるリラハピ体験の実施、コンポストで資源循環を進めるコンポストワークショップ動画やリーフレットの作成活動、半国山登山ルートの登山口に至るルート of 環境整備事業、高齢者と学生のエンパワーメントと社会参加促進のため、レクリエーション専門のスキルのある講師により、学生や市民を対象に実施する学習活動や新たな地域リーダーを発掘するためのサポーター養成講座の開催がされている。市民連携事業としては、環境フェスティバルを2回実施されている。

<浅田委員>

32ページの交流会館運営経費、鳥の巣ロッジは人気が高く、予約が取れない時期もあると聞いているが、拡張の予定はあるのか。

<市民力推進課長>

新しく開設する場所はなく、計画していない。

<山本委員>

31ページ、まちづくり推進経費の亀岡市支えあいまちづくり協働支援金について、当初予算で100万円計上されており、9月補正で113万1,000円を増額し、決算では195万2,000円となっているが、対象団体からの申請状況と交付決定するプロセスはどうなっているのか。

<市民力推進課長>

申請はすべての事業で12件あり、まちづくり推進委員会の委員、生涯学習部

長、外部の専門家で構成する支援金審査会に諮る中で、最終的には市長が決定するという流れになっており、2件が不採択となったところである。

<山本委員>

申請額から減額した事例はあるのか。

<市民力推進課長>

令和4年度では、減額して交付決定した団体はない。申請額が限度額まで達していないものがステップアップ事業では2件あり、交付決定額から交付確定後に支給額が下がった団体としてスタート事業で3件、ステップアップ事業で1件あった。コロナで控えられたものや事業収入が多く支給額より下がったものもあった。

<山本委員>

宿泊施設鳥の巣ロジ利用者の市内、市外の内訳は。

<市民力推進課長>

市内が81件、市外が751件である。

<竹内委員>

亀岡市支えあいまちづくり協働支援金について、かつて審査員をした経緯があるが、あまり中味が伴っておらず、本気度を感じない申請も当時はたくさんあったように思っている。また、毎回同じ団体が提出するなどがあったが、最近の傾向はどうか。

<市民力推進課長>

そのような事例は過去にあったため、支えあいまちづくり協働支援金は、令和5年度から制度を見直し、団体設立から3年以内の団体に対して支援することとした。そのことにより、ステップアップ事業や連携事業を実施する市民団体が資金面で苦慮されることを考え、ふるさと納税による補助金を創設し、今年度から活動していただいている。

<竹内委員>

支援団体が偏ることのないように、広報面に力を入れていただくよう要望しておく。

<福井委員>

36ページの地域振興事業費に関連して、東部文化センターは築何年か。

<人権啓発課長>

東部文化センターは、昭和47年建設で51年が経過している。

<福井委員>

長寿命化工事はしているのか。

<人権啓発課長>

東部文化センターについては、耐震改修工事を行っているが、長寿命化工事は行っていない。

<松山委員長>

東部文化センターの今後の改修計画は。

<人権啓発課長>

東部文化センターについては、耐震化工事は完了しており、今のところ建替えの計画もない。必要に応じて順次修繕で対応していく。

<小林委員>

33ページの人権啓発推進経費、いじめ調査委員会の機能は。

<人権啓発課長>

いじめが発生したとき、学校または教育委員会が調査を行い、それが重大事態であるとすれば、市長へ報告され、市長が必要と判断した場合について、再調査を行うことになり、亀岡市いじめ調査委員会を実施されるものである。

<小林委員>

再調査の事例は。

<人権啓発課長>

平成26年に亀岡市いじめ調査委員会を設置したが、再調査を行う必要のある重大事態はこれまでにない。

<原野委員>

同じく33ページ、人権啓発事務経費の使途は。

<人権啓発課長>

職員の出張旅費や事務用品等の消耗品費、封筒などの印刷製本費、電話料金、郵便料金などの事務経費である。

<三上副委員長>

まちづくり応援寄付金制度を令和4年度から導入したとのことであるが、寄附金の取扱いはどのようにしているのか。

<市民力推進課長>

各団体からの事業内容を紹介して寄附金の募集を行い、寄附者はその事業を選んで寄附をされる。寄附金は一旦ふるさと力向上基金に積み、1年遅れる形になるが、当該寄附金の7割相当を翌年度の事業に使っていただけるものである。

<三上副委員長>

決算書に記載の寄附金額は令和4年度に集まったものという認識でよいのか。

<市民力推進課長>

決算書に記載の金額は、令和4年度中に寄附をいただいたものであるが、令和5年度に団体へ交付する金額は令和4年のこの制度を始めてから12月までの分であり、自治会版ふるさと納税と同じ仕組みである。

<三上副委員長>

自治会は年度が変わっても自治会として存続しているが、各団体が翌年度も存続している保障はないと思うが、その点はどうか。

<市民力推進課長>

万が一団体が無くなった場合、亀岡市の施策に使わせていただくことになるかと考える。

<松山委員長>

生涯学習部は生涯学習振興基金を所管しているが、この寄附金はふるさと力向上基金に繰入して活用するものなのか。

<市民力推進課長>

市民協働の観点から、ふるさと納税として集めているため、ふるさと力向上基金に繰入れる形になる。

<山本委員>

先ほど亀岡市支えあいまちづくり協働支援金について、減額して交付決定した団体はないと聞いたが、例えば交付決定額が19万8,000円の団体について、交付確定額が16万7,000円となっているものがあるが、これはどういった経緯か。

<市民力推進課長>

交付決定としては、申請された額に対してすべて満額で交付決定をしている。先ほど答弁したとおり、事業収入があったため交付決定額からその分を減額して交付確定したものが1件、一部事業の取りやめなどにより、当初計画より事業費が減額したため、交付確定額が交付決定額より少なくなってしまったものが4件あった。

<三上副委員長>

33ページの人権啓発推進経費、人権啓発推進協議会への助成金について、教育部社会教育課からも同じ人権啓発推進協議会に対して助成金が支出されているがそのすみ分けはどうか。

<人権啓発課長>

人権啓発課からの助成金は人権啓発に係るものとして、主に啓発物品が対象になっている。具体的には、ステッカー、クリアファイル、機関誌、パンフレット、メモ帳など啓発物品の作成に係る経費が対象である。社会教育課の助成金は、主に研修会、講演会等の経費が対象となっている。

<三上副委員長>

人権福祉センターがNPOに委託して実施している隣保館デイサービス事業の179万7,400円について、健康教室や会食サービスなど多くの事業をしているが、その内訳は把握しているのか。また、参加者から会費を徴収していることはないか。

<人権啓発課長>

参加者から会費を徴収していることはない。隣保館デイサービス事業の内訳については、委託先から事業ごとではなく、人件費、材料費、講師謝金といった科目ごとに決算報告を受けている。

<三上副委員長>

業務委託のため、委託先がどのように事業をしたかというより詳細な報告は受けるべきだと思うがどうか。

<人権啓発課長>

今後、この内訳についても把握に努める。

<松山委員長>

39ページから41ページで質疑はあるか。

<福井委員>

生涯学習部は生涯学習振興基金を所管しているが、全庁的に活用しているふるさと力向上基金とのすみ分けはどうか。

<市民力推進課長>

生涯学習振興基金は、ガレリアかめおか建設のためにつくられた基金であり、ガレリアかめおか建設後も生涯学習を応援する理由でのふるさと納税寄附金は、生涯学習振興基金に積み立てて市民力推進課で管理をしていたが、令和2年度から、その分もふるさと力向上基金に積み立てることになった。現在、生涯学習振興基金では、令和元年度までのふるさと納税分と梅岩の里生誕地整備に係る寄附金を積み立てて管理している。

<三上副委員長>

生涯学習振興基金の残高は幾らか。

<市民力推進課長>

生涯学習振興基金のうち、生涯学習に係るふるさと納税分が令和4年度末で1,820万8,041円であり、梅岩の里生誕地整備事業分が同時期で2億4,239万320円となっている。

<原野委員>

生涯学習賞の選定方法は。

<市民力推進課長>

全国に募集を行い、その後、生涯学習選考委員による選考を経て、市長が決定する。

<原野委員>

議員に生涯学習賞の推薦者を書くように依頼を受けたが、この理由は何か。

<市民力推進課長>

様々なところに推薦依頼を送っており、議員から推薦いただければと考えている。

<原野委員>

募集をしてもなかなか応募がないのか。

<市民力推進課長>

応募がなかった年はなく、少なくなってきてはいるが、今年度も応募はある。

<原野委員>

特に議員に依頼されなくても、議員は一市民としてホームページから候補者を推薦すればよいと考えるがどうか。

<松山委員長>

今の質疑について、議員が推薦すれば何らかの圧力を感じてしまわないかという心配があり、選定する上で公平公正な判断とならないのではないかとのことだと考えるが、コメントあるか。

<市民力推進課長>

選定にあたっては公平にしているが、選考委員会にもそのような意見があったことは伝えておく。

<松山委員長>

43ページから最後までで質疑あるか。

<福井委員>

44ページのバルーンフェスティバルについて、反省点や効果などはどうであったか。

<生涯スポーツ課長>

試行的に開催したバルーンフェスティバルであるが、2日間の日程の中で、悪天候のため競技プログラムが中止となり、楽しみにされていた方々にとっては残念であったと思っている。次回は2日間を3日間の開催として競技ができる時間帯を増やせるように考えている。反省点としては、多くの方に来場いただき、駐車場が不足した点があり、次回からは増設を行っていきたい。効果について、バルーンというスポーツが亀岡の新しいコンテンツとして、にぎわいづくりやブランディングに貢献できたと考えている。

<福井委員>

初めての取組で1万2,000人の来場があったことは素晴らしいことと思っている。今年度の開催についてはその反省点を生かして準備をお願いしたい。45ページ、社会体育施設指定管理料、東別院グラウンドについて、東別院町

自治会に指定管理をしているが、委託している内容は。

<生涯スポーツ課長>

受付と全般的な施設運営、設備備品の管理、清掃等である。これまで適正に管理いただいている。

<原野委員>

44ページの生涯スポーツ振興経費、シビックプライド醸成プロジェクトの詳細は。

<生涯スポーツ課長>

市内の公立小学校に通う児童を対象に、京都スタジアムの見学や活動を体験いただき、スタジアムのあるまちとして、誇りやふるさとへの愛着を育むものである。具体的には、普段は見られないスタジアム施設の見学や京都サンガF.C.のコーチを招き、人工芝部分ではあるが実際にピッチ上で軽い運動をするなどしている。実績として、市内全ての小学校、義務教育学校18校が社会科見学や遠足、ふるさと学習の一環として実施され、参加児童数は1,240人、教職員が67人、合計1,307人となっている。

<浅田委員>

45ページの体育施設管理運営経費の月読橋球技場トイレについて、工事が遅れたもの間もなく完成間近と聞いているが、清掃は誰がするのか。

<生涯スポーツ課長>

月読橋競技場の指定管理者である亀岡市スポーツ協会が行う。

<浅田委員>

トイレは月読橋競技場から道路を渡ったところにあるため、交通事故が心配である。横断歩道や注意喚起の看板の設置の考えは。

<生涯スポーツ課長>

横断される道路部分を着色するとともに、看板の設置などの対策を講じる。

<三上副委員長>

バルーンフェスティバルについて、今年度は競技ができるように3日間で開催するとのことであるが、熱気球教室やマルシェ、夜の振舞いイベントなども3日間するのか。

<生涯スポーツ課長>

来週に実行委員会を開催する予定であり、これからの検討である。

<三上副委員長>

3日間ずっとイベントをすると従事する職員の労働環境が心配であるがその点はどうか。

<生涯スポーツ課長>

事務局となる生涯スポーツ課だけではなく、実行委員会の中で連携して対応していきたい。

<福井委員>

俳句事業は令和4年で終了とのことであるが、どのような効果があったのか。

<市民力推進課長>

海外含め市内外問わずたくさんの応募をいただき、感想の中でコロナが終息すれば亀岡に行ってみたいというような声もあり、光秀公のまち亀岡の十分な発信ができたと思っている。

(質疑終了)

14:37

(休憩)

14:37~14:50

(会計管理室 入室)

14:50~

【会計管理室】

会計管理室長 あいさつ

各課長 説明

15:13

《質疑》

<福井委員>

公用自動車の車検等に係る入札と保安基準の関係についてどう考えているか。

<財産管理課公用車管理担当課長>

車検や点検時の保安基準には項目があり、それを重視して実施いただくことになるが、考え方として対処療法と予防の面があると思っている。15年以上使っている公用車が非常に多いため、走行距離もかなりの数値となっており、万が一のことに備え予防の観点からも点検を依頼している。また、価格的な面では10年近く公用車の管理を担当している感想として、物価上昇の影響から修繕料や点検費も上がってきている現状にあるが、適正な管理を徹底していきたい。

(質疑終了)

15:20

(2) 令和4年度亀岡市曾我部山林事業特別会計決算認定について
(第10号議案)

財産管理課長 説明

15:23

《質疑》

なし

(3) 令和4年度各財産区特別会計決算認定について
(第14号議案~第43号議案)

財産管理課長 説明

15:35

《質疑》

なし

(会計管理室 退室)

《事務事業評価打合わせ》

<松山委員長>

これより、事務事業評価打ち合わせを行う。事務局より、事務事業評価の流れ等、説明願う。

[事務局より、事務事業評価の流れ等について説明]

<松山委員長>

評価点数は、それは個人のことであるので、最後の総合評価で話をしていただき、拡充、現状維持、見直しが必要なのか、意見の中でまとめるということによいか。

—全員了—

<松山委員長>

本日の審査はこれまでとする。20日、午前10時から再開する。

散会 ~15:47